

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	4371100431		
法人名	医療法人再生会		
事業所名	認知症対応型共同生活事業めぐもり		
所在地	熊本県宇土市松山町1908		
自己評価作成日	平成25年10月15日	評価結果市町村受理日	平成25年12月2日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

入居者様それぞれの個性を発揮でき、我が家と同じように気兼ねなく生活していただくために、お一人おひとりの楽しみや、役割を大事にし、いつまでも尊厳のある生活が営まれるよう、さりげない支援を心がけています。そしてそのことを大事にしながら、共同生活される方々として、孤立されることなくお互いのいいところを認め合い、楽しく生活をしていただけるように関わっています。そのためか、病気の方に優しく声をかけられたり、ホームを出て行かれようとする方に、「ここに一緒にいましょう」と言われたり、食事があまり進まない方に声をかけたりと入居者同士の思いやりや、支えあいの場面が多く見られます。職員の入れ替わりが少なく、入居者様にとってよい環境になっていると思います

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://search.kaigo-kouhyou-kumamoto.jp/kaigosip/Top.do
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人 あすなる福祉サービス評価機構
所在地	熊本市中央区南熊本三丁目13-12-205
訪問調査日	平成25年10月29日

法人の地域に開かれた事業所運営を展開したいとする精神は、開所当時よりグループホームにも受け継がれ、入居者を主体として地域との関係継続を盛り込んだ理念にも表出している。職員への勤続表彰や育児休暇の確保、ユニホーム代の支給など手厚い福利厚生は職場への定着と仕事への意欲をかきたて、開所時からの職員も少なくない。長テーブルを繋いで食事や手作りおやつと一緒に味わい、自宅を案ずる声や、入居前からの生活スタイルを継続して支えている。ホームで入居者がどう暮らしたいのか、職員がどう関わるべきかを寄り添いのケアの中から答えを拾っている。職員の生き活きとした姿勢と質の高いケアは家族が最も信頼を寄せる所であり、今後の取り組みが大いに期待される。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当する項目に○印
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています (参考項目:9,10,19)
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働いている (参考項目:11,12)
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

自己評価および外部評価結果

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	申し送りやミーティングの際理念を唱和している。唱和することにより認識が深まっている。日々の行っているケアが理念に沿ったものであるか振り返りながら困ったときは職員で話し合い理念に基づいたケアを実践していくようにしている	理念に「入居者の気持ちに寄り添うケア、柔軟なケア、地域との関係継続」を謳い、職員は唱和による意識付けを図りながら年目標と共に支援の原点としている。離職のない職場環境は何よりそこで暮らす入居者と職員自身が生み出すものであり、居心地のいい空間となって来訪者にも優しいホーム運営が展開されている。	理念は運営推進会議の議事録表紙にも明記され、参加する地域代表者へ向け啓発に努めている。今後は会議の中でトークを交えながら紹介する事で、更なる理解に繋がるものと期待したい。
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	散歩などの際地域の人からの声かけや野菜の差し入れなどがある。又近所のお祭りや敬老会への招待もあり参加している、ボランティアで地域の方が健康体操、舞踊、保育園児との交流会も行っている。子供110番の場所にもなっている	ホーム前に広がる法人の広大なグラウンドには、地域の人々も気軽に訪れ、散歩中の入居者が挨拶を交わしたり、保育園児や学童保育の子供たちとの交流の場ともなっている。法人主催の運動会では入居者が率先して競技に参加し、文化祭への山菜おこわの出品は毎年、好評を得ている。隣接する多機能ホームでの健康体操を楽しみ、舞踊見学には地域にも声かけしている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	中学生・養護学校生の職場体験、専門学校生・介護基礎研修の実習場所となっている認知症の方を理解していただくように協力している。母体の文化祭時は認知症コーナーを設け啓発活動も行っている、		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	会議では利用者の状況報告にとどまらず問題点の報告も行っている施設側の取る組む姿勢や地域の方のホームへの理解を深めていただくように努めている、又困っているときは一緒に考えていただいている。地域の交番のおまわりさんの参加もある。	二ヵ月ごとの定期開催が実現し、入居者の現状や活動報告、アクシデント報告により、ホームの透明性を図っている。参加者の認定調査への疑問には行政へ声をあげ、地元警察の参加協力により地域の防犯の実情や、防火に対する心構え、交通事故への注意点など参加者への分かりやすい説明が行われるなど有意義に進められている。	現在、会議には家族の代表者が1名参加している。ホームの現状を知り地域の情報を共有して、意見や要望を提案するせっかくの機会であり、他の家族の参加も検討いただきたい。

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	市町村の担当者に不明なことは相談したり色々な情報も頂いている。そのほか台風などの災害の注意も気にかけていただいている	行政からの推進会議への参加により、直接意見や要望を出し分からない点は電話で質問している。地域の『見守り隊』には職員が参加して声かけの仕方を学び、推進会議で介護保険改定に伴う説明などが包括職員の協力により得られている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束を行わないことは経営者の考えでもあり身体拘束の悪影響を職員全員が理解し見守りの強化、職員間の声かけ等しながら、入居者の安全を守り、安心して自由に暮らせる様取り組んでいる。また行動障害のある場合も工夫しながら拘束をしないケアを実践している	身体拘束をしない事が前提であり、職員は一つ一つの行為について正しく理解している。オープンな玄関や廊下のドアから入居者は自由に入出し、職員が安全な間隔を保ちながら一緒に行動している。入居者の尊厳を重んじているホームであり、言葉や態度での封じ込めやプレッシャーにも十分の配慮が行われている。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	研修に参加したり、勉強会を行ったりして理解を深めている、日頃のケアで虐待、特に心理的虐待を無意識で行っていないか、振り返りながら、防止に努めている、職員全員心にゆとりを持てるように考えた勤務表作成を行っている		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	研修に参加し勉強会などで報告、全員が学ぶ機会を持っている全職員が人権を意識し話し合いながら日々の業務にあたることを心がけている。全職員が権利擁護を理解できるように母体の専門職と連携を進めていきたい、		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	入所時に必ず重要事項説明書その他の書類を基に説明を行っている。又質問や不明な点、介護に対する要望なども聞き納得していただくまで対応している		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	家族アンケートや家族会(年2回)を開催し意見や要望を聞く機会を設けている 今後も内容を充実させ運営に反映できるようにしていきたい	開所時からの入居者も居られ、職員との関わりは深く、普段から何でも言える環境にある。日常の会話から「買い物したかー」「家に帰ってくるけん」など個々の希望を聞き取り、食品や衣類の買い物支援や、自宅までの送迎を支援している。	家族の意見や要望に丁寧に応じている。年一回の「家族アンケート」は質問内容を見直すことで、更にホーム運営に反映されることと思われる。
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	毎月のミーティング時懇話会を開催しているがそれ以外でも意見が出せるように懇話会ノートを作りいつでも記入でき、その出た意見を運営会議にて話し合い運営に反映できるようにしている	職員は普段からノートを活用して気づいた点を記録に残し、ミーティングで更に意見を出し合い検討している。年2回の運営会議には小規模事業所と意見を共有し、法人関係者が参加して物品購入などについても提案が出されている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	人事考課制度を取り入れており、日常の業務を評価し給与につなげている。 職員が向上心を持って働けるよう働きかけている。介護職員の処遇改善制度も取り入れている		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	多くの職員が研修を受ける機会が得られる様に取り組んでいる、受けたい研修があるときは勤務調整を行い参加できるように配慮している、資格取得のため取り組んでいる職員もいる。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	地区の連絡会で職員同士の交流会がある多くの参加につながっていないが勉強会での交流はある、同業者の訪問があるときはホーム内を案内し意見を聞いたりしている		
II.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	日常の会話の中で本人様の思いや要望などを把握するようにしている、又本人様が話しやすい雰囲気作りを行い安心して話していただけるように心がけている		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入居時にはご家族の思いや要望を聞きご家族の思いを受け止めるようにしている 何かあれば相談し一緒に考えながら話し合い行っている		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	本人様のご家族が何を必要としているかを把握しご家族や担当者と話し合をしながら行っている		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	生活をともにする中で植物や農作物の定植の時期や育て方を教えていただいている女性が多いので家事など自然に手を出しやすい環境づくりに努めている		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	キーパーソンの方には毎月、遠方の家族には定期的に手紙、写真、を送りホーム内での生活の様子を伝えている。介護拒否のある方にはご家族に協力の元食事介助などしていただいている、病院受診においても協力いただいている		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	自宅へ戻られた際には兄弟の家、近所、行きつけの店、お寺へ寄り、お話をしたり、買い物を通して関係継続の支援をしている、若いときから利用されている美容室に本人の希望時に予約お連れしている、又、併設の施設利用者の友人との関係も切らないように支援している、	家族の面会の機会を大切に支援し、自宅への一時帰宅の際には、室内の掃除やお寺や近所への挨拶、兄弟方の訪問など、入居者が日頃気に掛けている部分へ配慮し馴染みの関係継続を図っている。絵手紙や職員が指導するパッチワーク教室での趣味の講座も楽しみごとの一つである。朝はゆっくり起きてこられる入居者のこれまでのこだわりのスタイルにも配慮し、朝食を用意して待つなどの支援が行われている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	利用者同士の会話にすぐに介入するのではなく自然にする会話を大切にしている個別に話を聞いたり、相談に乗ることはもちろん、利用者の動きと役割に配慮しながら言葉かけや場の設定を心がけている、心身の状態や感情の変化も注意深く見守るようにしている		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	入院された方に会いに行ったり、GHでの生活の様子、声かけの工夫など、情報を提供し環境が変わることによる混乱などを最小限にし安心した療養が出来るようにフォローしている、		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	日々の関わりの中で一人ひとりと話したり声かけを行うなかで、本人様が伝えたい事や思いを把握するようにしている。また、自分の思いを言葉として伝えられない方などは表情を見たり、生活暦などを活用しながら行っている時にはご家族に聞いたりしている	職員は日々の何気ない会話から入居者の思いを引き出している。表現困難な方にはその仕草や行動から推察したり、家族や関係者の話を聞き情報を収集しプランに反映させている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	今までの生活のリズムや習慣などを大切にしながら出来ることや出来ないことを判断している。不十分な部分は、ご家族に聞いたりして把握できるように努めている		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	これまでの生活されていたリズムや習慣を大切にしている一人ひとり生活のリズムは違うため、毎日の行動や言動の中から本人様の全体像を把握するように努めている		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	本人様やご家族から毎日の関わりの中で思いや意向を聞きながら出来るかぎり、反映させている。ミーティングや申し送りの中で職員間での意見交換やモニタリング、アセスメントを行い総合的に判断して作成している	入居者や家族の意向を確認し、個々に必要な支援をプランに上げている。退院後の入居者へ新たなプランを立て直し、生活リハビリの為にポータブルトイレを使用せず、あえて遠くのトイレを利用する事で、歩行の訓練とトイレでの排泄により本人の自信に繋がるようなプランニングを心がけている。毎月の評価で内容を見極め、現状に即した支援をしている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	個別ファイルを作成し食事量や排便の有無、バイタルなどの身体状況を記録している又ケアプランに沿って記録し職員のきずき、本人様の変化など記録し、記録や職員間での情報を基にしながらケアプランの見直しをしている		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	小規模多機能を併設しており、小規模多機能を利用されていた方がGH入居された後小規模に面会に行かれたり、頻回に外に出られる方が小規模の職員や利用者様とゆっくり過ごされたりして、なじみの関係が出来ている		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	昔からの行きつけの美容院や店などに定期的に通い、近所の方との交流をしている 運営推進会議では区長や老人会会長などの参加もあり、地区の行事に参加したりしている		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	ご家族の希望を聞き受診してもらっている必要に応じて受診の付き添い、ご家族と同行して日頃の状態、変化を伝えるようにしている。ご家族の付き添いが困難な場合は、職員が付き添い、受診後の報告をTELで行い記録に残している、その他歯科の訪問診療や突発的な往診もある	これまでのかかりつけ医を継続して支援しているが、緊急時の面などから家族の意向で法人医療機関へ移行された方もあり、散歩を兼ね職員同行の受診支援や状況に応じ往診が行われている。他の医療機関への受診についても家族の同行や職員と病院で合流するなど個々に応じ支援している。本人の状態を家族に知ってもらうよう体調の悪い時だけでなく、良い状態も報告し、日頃から連携を図り信頼関係を築いている。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	看護職員の配置を行っている不在の際はオンコール体制をとっている、母体の看護師との連携も取れている、夜間帯は看護師が到着するまで対応を依頼することもある。併設の小規模多機能の看護師とも連携が取れている		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院時は情報提供を行うとともに、何か不明な点があったら、いつでも連絡していただくようにしている。面会時には情報交換に努めている家族とも回復状況など情報交換をしながら事業所内での対応が可能な段階でなるべく早く退院できるように支援している		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所のできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	入居時に看取りの指針を伝え、実際看取りの場面になった時再度、事業所指針を具体的に伝えている、同時にスタッフの気持ちを大事にしながら、終末期の介護について、勉強会 ・カンファレンスなどで、不安の軽減を行う地域の担当医や母体病院との連携に努めていく	入居時に看取りに関する指針を説明する他、今後の対応を伝える必要がある方へは、ケアプラン説明時に家族へ状態を伝えている。ホームでは職員のメンタル面にも配慮しながら終末期支援に関する勉強会が開催されており、これまで一名の看取りや急変されギリギリまでホームで支援した事例がある。看取りを振り返り反省会を行った際、本人の思いはどうだったのか？と疑問も残ったと管理者は語っている。	職員や家族の協力、医療機関との連携により看取り支援の事例があり、職員間で振り返りが行われている。その時の反省点を踏まえ、今後は何らかの形で本人の思いを確認する機会が設けられる事に期待したい。

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	毎月救急訓練を実施、年1回は応急手当の勉強会を行い訓練をしている。緊急時の連絡も体制も管理者を中心に近隣の職員が駆けつけるようにしている		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	防災マニュアルを作成し、毎月防災訓練を行っている。また母体の防災委員会にも参加し、母体との協力体制も整えている。何かあったときは、近隣の職員が、応援に駆けつける体制になっている	年二回の火災総合訓練(一回は消防署も参加)をはじめ、毎月の防災訓練、年一回は近隣職員が駆けつける訓練など、ホームは災害対策へ全職員が意識を持って取り組んでいる。訓練後は消防署から受けた指摘や職員の気づきや反省を会議で共有し、次回に活かしている。備蓄については、主食や水・乾パンなど法人やホームでも準備している。	法人全体で取り組んでいる防災対策に加え、地元消防団との連携の強化や、日頃の安全チェックを記録に残し、意識付を図るなど今後の取り組みに期待したい。
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	職員は「逆の立場だったら」ということ考えケアに当たっている一人ひとりの思いを考え排泄の声かけ等は、ほかの人にきずかれないようさりげない声かけに努め、トイレや入浴時もプライバシーに配慮しながら危険のないように個々に合わせた身まもりを行っている	呼称は基本的には苗字としているが、お母さんなど入居者の希望や安心される呼び方を家族にも確認しながら対応している。排泄時は安全を見ながら外で待機したり、一人で入浴される方の見守りや同性介助への対応など、プライバシーに配慮した支援に努めている。居室へ入る際は声かけやノックの徹底がされている。職員の守秘義務について、入職時や研修会の中で指導が行われている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	一人ひとりに合わせた声かけを行い同じ目線に立ち、落ち着いて自己決定・思いを出してもらえるよう心がけている。また職員は行動や言動から思いをくみ取ることの大切さを理解しケアに当たっている		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	起床が遅く、朝ゆっくりしたい人は朝食を遅らせて食べていただいたり、また、一人でゆっくり居室で食べていただいたりと、対応している。入浴時間も本人の好きな時間に入れるようにしている。朝新聞をみて好きなテレビ番組があるときは職員がその時間になったら声かけをして見ていただいたりと、希望に沿って支援が出来るように努めている		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	本人の意向を大切に洋服など決めていただいている、選ぶことが出来ない人は、一緒に考え本人の気持ちに添える様に心がけている、本人の好みやこだわっているスタイルなどを把握し支援している。毛染めやカットもなじみの美容室に出かけている、爪のおしゃれが好きな方には時々マニキュアを塗り楽しんでもらっている		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	一緒に買い物に行ったり、メニューを一緒に考えたり、食事の準備や片付けなど、その人に出来ることを手伝っていただいている、畑で収穫した野菜で嫌いだ物でも、準備の手伝いをしたり、みんなで楽しく食事を囲むことにより食べられるようになった方もおられる	冷蔵庫の中の食材を確認し、入居者の希望を聞き取りメニューが作られている。旬の食材を調達し、菜園や差し入れの野菜・魚も活用されている。調理は職員が中心に行っているが、入居者もご飯のつぎ分けや味見、下膳など出来ることに関わっている。男性入居者・職員の共同制作のテーブルも配置された食堂で、職員も一緒に食事やおやつの時間を楽しんでいる。和やかなその光景にホームの日常が現れていた。	家族会での会食などホームの食事を知ってもらう機会が設けられている。今後は地産地消をはじめとした食材へのこだわりや、本人の好みを取り入れた誕生会メニューなど、普段の取り組みを家族に伝える事で、更に家族の関心や安心繋がっていくと思われる。
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	一人ひとりの体調と一日の摂取量を把握している、各人に合わせて、粥、パン、刻み、ペースト状にしたりして提供している、水分なども不足しないように工夫しながら支援している、摂取量が低下している人はカロリーメイトやメイバランス、その他好みのものなど準備し栄養確保に努めている		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後声かけ、誘導、介助、見守りなど各人に合わせて支援している、精神状態で食後できない方は無理強いせず時間を置いたりスタッフを交代しながらと工夫しながら支援しています。義歯は夜間義歯洗浄剤使用で清潔保持に努めている、歯科の訪問診療の対応もある		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄パターンを把握し誘導によりトイレで排泄、便座に座れない方はポータブルを使用し排泄を促している。日中は布パンツで過ごせるように支援している。又入居当初失禁で、下着交換にも応じられず尿臭がある方を支援により失禁がなくなり尿臭は消失、自立できている	それぞれの排泄パターンにより、声かけや誘導、自立の方の継続を支援し、日中は殆どの方が布下着で過ごされている。入院された方が退院された後も、本人の体調に配慮しながら、オムツではなく以前のように布下着や紙パンツを使用してもらい気持ちよく過ごしてもらえるように努めている。居室にトイレが設けられていることは入居者の安心に繋がっており、日勤職員を中心に掃除が徹底されている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	水分補給を十分に行い繊維物の多い食物を提供している、運動の出来る方は体を動かすようにして出来ない方は腹部マッサージやホットパックを行っている。起床時に水分や牛乳なども提供している		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	入浴は毎日可能で、入りたい時に入っている。入浴を拒む人に対しては言葉かけや対応の工夫、介助者の交代など、タイミングが合えばいつでも入浴していただき、小規模の風呂を使用することも可能となっている。体調に合わせて清拭、更衣、足浴をしていただくこともある	毎日入浴の準備を行い、午前・午後、夕食後など体調に配慮しながら希望に応じ支援している。拒否の方に対しては、時間をずらしたり職員が入浴の雰囲気盛り上げ誘導するなど、チームワークが発揮されている。また、家族支援により温泉施設を利用される方もおられる。季節湯(菖蒲・ゆず)は、二日間にわたって行い、全員が楽しめるようにしている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	前日の睡眠状況、その日の入居者の活動の状況を見て休憩を促している、夜間に睡眠が取れるようになるべく、日中の活動を充実させる様に努めている、眠れないときはスタッフルームでお話をしたり、雑誌やTV見たり、温かい飲み物等提供し時間を説明しながら眠れる雰囲気を作る		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	内容を把握できるようにカードックスに薬情報を入れてある。翌日分をセットする際には、写真と照合しながらセット、間違いのないように複数で確認する。バイタルなど状態の変化が観られるときは、Nsに報告。家族やDr連携が図れるようにしている		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	野菜作り、梅干作り、干し柿作り、餅つきなど入居者に昔の話を聞き職員が教わりながら行っている、花の水かけ食事の準備、後かたづけ、洗濯干し、たたみ等、それぞれの入居者に役割があり、力を発揮していただいている、ドライブやコンサート、ファミレスに食事やデザートを食べに行ったりと外出をととても喜ばれる		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	希望により、自宅やお寺、買い物、などに出かけている、昔からの行きつけの、美容室にも協力してもらい連携をとり外出している、病院受診や墓参りなどの外出を希望される時は家族に協力をお願いしている、季節に応じてのドライブなど外出の機会を多くするように努めている	ホームの目の前には法人の持つ広いグラウンドが広がり、入居者は気候や状態に応じ散歩を楽しんでいる。また、個別による月命日の帰省や買い物支援の他、墓参りや週末の帰省、受診支援などには家族の協力が得られている。紫陽花や菖蒲などの季節の花見や外食などのドライブ外出や、近所のお宅でのバラ見学、法人行事への参加を楽しまれていることは、ホームだよりをはじめ、聞き取りからも確認された。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	お金は事務所で預かり金額を伝えて必要時には預かりから出すように伝える。入居者の中には小銭を自分で管理されている方もいる、預かりのお金を渡しホームに来るパンの販売や一緒に買い物に行き自分で選び買い物をされるような支援も行っている		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	電話の制限はしていない。使用時は入居者のプライバシーに配慮し事務所のドアを閉めている。月に一度の家族への手紙に自分で作成された作品を同封している母の日や誕生日に贈り物が届いたときはお礼の電話が出来るように支援している		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	室内にいても花壇や洗濯物が干してある場所が見える。台所も見える位置にあり生活者としての活動の場所を提供している。畳コーナーには仏壇を置いて毎朝お参りをし、お茶、ご飯を入居者がお供えている	季節の花鉢や庭先の花が飾られたホーム内は明るく、リビングや広めの廊下に設置されたソファでは、入居者が一人になったり、家族の面会時にも利用されている。段上がりの畳の間では、洗濯物たたみや新聞を広げられ穏やかな日常が展開されている。また、水滴やゴミなどが落ちていないか、職員が目配り・気配りをさりげなく行っている姿に日常を垣間見れた。入居者に寄り添い、穏やかに、時には活気ある語りかけなど、一人ひとりの職員の関わりそのものが居心地のよい環境を作り出している。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	共用の場所でなじみの人と過ごして頂けるようソファも色々なタイプを置いている一人でも過ごしたい時もあると考え距離もおいている。季節に合わせて皆で取り組む壁画やカレンダーづくりは希望を聞きながら参加頂いている		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	今までの思い出を大事にしながら過ごして頂けるよう、小さな仏壇や写真、自宅で使用した家具など配置している。自分の寝具や衣類など量が多いと混乱される方もあり、状況をみながら、預かったり、そっと戻したりしている	自宅にいる時と同じような「普通の生活」を大切に支援しているホームは、入居時に利用者の馴染みの物、大切な品の持ち込みを依頼している。どの部屋も本人や家族の思いが詰まったタンスや椅子・テレビなどが置かれ、ベッドの位置は入居者の状況に応じ移動をしたり、衣類の整頓を行い安全で落ち着いた居室環境に努めている。また、車椅子利用者にも優しいゆとりある造りや大型の窓が災害時の非難口としての役目も持っている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	部屋がわからなくなる方については目印をつけるなど工夫をしている。本人の状況に合わせて環境整備につとめている、トイレまでの動線を短くベットの位置を移動したり、トイレの電気を夜間つけておいたりなど対応している		